

涙のひなまつり

ラジオネーム：せつちゃん

例年以上に雪が多かった冬でしたが、ようやく雪解けの頃を迎えました。雛飾りが室内に春の華やぎを添えてくれています。

このところ、七段飾りを出すのが億劫になってしまい、お内裏様とお雛様のみのお飾りです。

この雛飾りは、私が生まれた時におばあちゃんとおじいちゃんが買ってくれたものでしたね。

まだキンと冷えた床の間に段々を組み立て、紅い毛氈もじせんを敷いてお人形を並べました。私も妹も早く完成させたくて、人形の配置がめちゃくちゃ。

それをあるべき場所に並べ直してくれたのが、おばあちゃんでした。

「左近の桜、右近の橘。さこんの」さ「だから」桜「は左と覚えればいいよ」と教えてくれたおばあちゃんに、「でも、桜が右に置いてあるよ」と私。「段飾りの左右は、お内裏様から見ての左右だから、これでいいの」と微笑んだおばあちゃんの柔らかな顔を、五十年以上経った今も思い出します。

でも、私は桃の節句が大嫌い。わかるでしょ、おばあちゃん。あなたが亡くなった日だからです。

七段飾りの前にお膳をならべて、いつものように

「たのしいひなまつり」を歌い、これからケーキを食べようという時に鳴った電話。父の青ざめた顔。

お膳もそのままに病院に駆けつけました。

幼稚園児だった私と妹が初めて直面した「死」でした。

おばあちゃんがなくなるとというのが正直理解できなくて、

みんなが泣いているのが悲しい、という感情だけが残りました。

生があれば、死もある。それを示してくれたのがおばあちゃんでした。

何年経っても桃の節句は、季節が巡る喜びと、おばあちゃんを

思い出して流す、せつない涙の日です。

リクエスト曲

∧ ウーマン      /      アン・ルイス      ∨